

～親子ではぐくむネットモラル～

子どもに伝えたい「本当の情報」と「フェイクニュース」の見分け方

インターネットやSNSが情報の主な入り口となった今、子どもたちは日々膨大な情報に触れています。しかし、その中には事実とは異なる「フェイクニュース」や誤情報も多く含まれており、知らずに信じてしまうことで誤った判断や偏った価値観につながる危険性があります。保護者として、子どもに「情報を見極める力」を育てることが重要です。

まず伝えたいのは、「ネットの情報はすべてが正しいわけではない」という前提です。見た目が立派な記事でも、出所が不明だったり、意図的に誤解を招くような表現が使われていたりすることがあります。特に、感情を強く揺さぶるようなタイトルや画像には注意が必要です。「本当かな？」と一度立ち止まる習慣をつけることが、フェイクニュースへの第一の防御になります。

次に、情報の出典を確認する力を育てましょう。信頼できるメディアか、専門家の意見か、複数の情報源で同じ内容が報じられているかなど、情報の裏付けを取ることが大切です。子どもと一緒にニュースを見ながら、「これはどこが発信しているの？」「他のサイトでも同じことを発信している？」と問いかけることで、自然とリテラシーが身につきます。

また、子どもが情報を発信する側になることもあります。SNSでの投稿やシェアは、他人に影響を与える行為です。「自分が広める情報は正しいか」「誰かを傷つけていないか」を考える力も、情報モラルの一部です。

情報を鵜呑みにせず、疑問を持ち、確認する力は、これからの時代を生きる子どもにとって欠かせないスキルです。家庭での会話を通じて、子どもと一緒に「情報との付き合い方」を育てていきましょう。

「ながらスマホ」が学力に与える影響とは？

食事中、勉強中、移動中——気づけばスマホを手に行っている。そんな「ながらスマホ」が、子どもたちの生活で見られることがあります。しかし、便利さの裏で、学力や集中力に悪影響を及ぼしている可能性があることをご存じでしょうか。

「ながらスマホ」とは、何か別の行動をしながらスマホを操作すること。特に勉強中の「ながらスマホ」は、脳の働きに大きな負荷をかけます。人間の脳は、複数の作業を同時にこなすのが得意ではなく、スマホの通知や動画に気を取られることで、学習内容の定着率が下がることが研究でも示されています。

また、スマホの画面は強い刺激を伴うため、読書や問題演習といった地道な学習に比べて、脳が「楽しい」と感じやすくなります。その結果、勉強への集中が続かず、「やる気が出ない」「すぐ飽きる」といった状態に陥りやすくなるのです。

保護者としてできることは、まず「ながらスマホ」の習慣を見直すこと。勉強時間はスマホを別の部屋に置く、通知をオフにする、タイマーを使って集中時間を区切るなど、環境づくりが効果的です。また、「なぜ集中できないのか」「どうすれば勉強がはかどるか」を子どもと話し合うことで、子ども自身が意識を持つようになります。

スマホは便利な道具ですが、使い方次第で学力に差が出る時代です。「ながら」ではなく「メリハリ」を意識した使い方を、家庭の中で一緒に育てていきましょう。